

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態		演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	菅野 善明									
授業概要	植物に発生する主要病害の種類、症状、発生生態および防除法を学ぶ。 植物には多種多様な微生物が感染し病気を引き起こしている。ある一つの植物をテーマとし、発生病害、病気の原因、病原体の種類、植物における症状、病気の発生生態および防除法を広く理解するため、これらを学生が関心のある園芸作物についてまとめ発表を行う。									
関連する科目	微生物学、植物病理学、植物バイオ・育種演習、植物バイオ・育種実験、総合防除論、専攻演習および専攻演習Ⅱを履修していることが望ましい。									
授業の進め方 と方法	自分の卒業論文テーマに関連のある論文を読破し、プレゼン形式で発表します。発表内容について他の受講生、教員からの質問受け回答する。また、プレゼンの仕方についても相互に意見交換し、今後の発表に生かす。受講生は持ち回りで論文を紹介する。論文1報を時間内でわかりやすく説明できるようにまとめ、図表を用いながら発表を行う。									
授業計画 【第1回】	ゼミ形式で行い、持ち回りで専攻学生は論文発表を2回行う。発表当番以外は他の専攻学生の発表を聞き、内容について意見・質問を述べ議論すると共に、発表の仕方についても検討する。 第1回：論文発表①糸状菌 野菜の糸状菌病の糸状菌の分離・同定についての論文をまとめてプレゼンを行う。									
授業計画 【第2回】	第2回：論文発表②糸状菌他の専攻学生の発表についての論議① 花卉類の糸状菌病の糸状菌の分離・同定についての論文をまとめてプレゼンを行う。									
授業計画 【第3回】	第3回：論文発表③糸状菌他の専攻学生の発表についての論議② 果樹の糸状菌病の糸状菌の分離・同定についての論文をまとめてプレゼンを行う。									
授業計画 【第4回】	第4回：論文発表④細菌他の専攻学生の発表についての論議③ 野菜の細菌病の細菌の分離・同定についての論文をまとめてプレゼンを行う。									
授業計画 【第5回】	第5回：論文発表⑤細菌糸状菌他の専攻学生の発表についての論議④ 花卉類の細菌病の細菌の分離・同定についての論文をまとめてプレゼンを行う。									
授業計画 【第6回】	第6回：論文発表⑥細菌菌論文発表② 果樹の細菌病の細菌の分離・同定についての論文をまとめてプレゼンを行う。									
授業計画 【第7回】	第7回：論文発表⑦ウイルス糸状菌他の専攻学生の発表についての論議⑤ 野菜のウイルス病のウイルスの分離・同定についての論文をまとめプレゼンしてもらいます。									
授業計画 【第8回】	第8回：論文発表⑧ウイルス糸状菌他の専攻学生の発表についての論議⑥ 花卉類のウイルス病のウイルスの分離・同定についての論文をまとめてプレゼンを行う。									
授業計画 【第9回】	第9回：論文発表⑨ウイルス糸状菌他の専攻学生の発表についての論議⑦ 果樹のウイルス病のウイルスの分離・同定についての論文をまとめてプレゼンを行う。									
授業計画 【第10回】	第10回：論文発表⑩糸状菌他の専攻学生の発表についての論議⑧ 糸状菌の診断・防除法についての論文をまとめてプレゼンを行う。									
授業計画 【第11回】	第11回：論文発表⑪細菌論文発表③ 細菌の診断・防除法についての論文をまとめてプレゼンを行う。									
授業計画 【第12回】	第12回：論文発表⑫ウイルス他の専攻学生の発表についての論議⑨ ウイルスの診断・防除法についての論文をまとめてプレゼンを行う。									

授業計画 【第13回】	第13回：論文発表⑬糸状菌他の専攻学生の発表についての論議⑩ 糸状菌に対して拮抗性を持つ微生物の探索と利用についての論文をまとめてプレゼンを行う。
授業計画 【第14回】	第14回：論文発表⑭細菌他の専攻学生の発表についての論議⑪ 細菌に対して拮抗性を持つ微生物の探索と利用についての論文をまとめてプレゼンを行う。
授業計画 【第15回】	第15回：論文発表⑮ウイルス他の専攻学生の発表についての論議⑫ 弱毒ウイルスについての論文をまとめてプレゼンを行う。
授業の到達目標	・自分の卒業論文のテーマが植物病理学の中のどの位置にあるかを理解する。 ・論文の構成について理解する。わからない点（こと）を自分で気付く力、またそれを自力で調べ理解する力、さらには調べたことをまとめ発表する力を習得する。 ・わかりやすいプレゼンテーション能力を習得する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外の学修 【予習】	課題発表の配布資料・プレゼン内容を事前に教員と図表の説明、まとめ方、理解できない点などについて確認・修正すること（45分）。
授業時間外の学修 【復習】	発表後は答えられなかった質問について調べ次回回答する。また、自分のプレゼンについて評価し次回の発表に生かす（1時間）。
課題に対する フィードバック	論文を読みまとめることおよびプレゼンでの質疑により卒論テーマをより深く理解する。プレゼンについての意見交換により、プレゼン能力が向上する。
評価方法・基準	論文内容の理解度・発表能力・受講態度・プレゼン内容を総合的に評価する。（100点）
テキスト	必要に応じて作製した資料を配布する。
参考書	日本植物病理学会報（日本植物病理学会）
備考	

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態		演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	山口 健一									
授業概要	受講生の各課題テーマについて、研究の背景、実験材料および方法、発表時までの実験結果および考察を纏め、学会方式でプレゼンテーションできる力を養うことを目的とする。									
関連する科目	専攻演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文									
授業の進め方 と方法	事前に提示した課題について自ら学び、ゼミ形式でプレゼンテーションを実施する。本授業では、受講生と担当教員がディスカッションしながら問題解決型の体験学習として行う。									
授業計画 【第1回】	01. 授業の進め方 受講生各自の課題を決め、プレゼンテーション方法について説明する。									
授業計画 【第2回】	02. プレゼンテーションの実例 教員あるいは上級生によるゼミ発表と質疑応答									
授業計画 【第3回】	03. 課題に対するプレゼンテーション 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
授業計画 【第4回】	04. 課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
授業計画 【第5回】	05. 課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
授業計画 【第6回】	06. 課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
授業計画 【第7回】	07. 課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
授業計画 【第8回】	08. まとめⅠ（総括） 前半の研究課題について受講生全員が理解し、共通認識する。									
授業計画 【第9回】	09. 課題に対するプレゼンテーションⅡ 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
授業計画 【第10回】	10. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
授業計画 【第11回】	11. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									

授業計画 【第12回】	1 2. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第13回】	1 3. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第14回】	1 4. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第15回】	1 5. まとめⅡ（総括） 後半の研究課題について受講生全員が理解し、共通認識する。
授業の到達目標	各卒業論文の課題テーマについて、結果の纏め方および学会発表する力を身につける。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外の学修 【予習】	今回の課題テーマを予めアナウンスするので、各自で予習を行う。（30分程度）
授業時間外の学修 【復習】	授業で用いた課題テーマについて受講生各自で毎回復習する。（1時間程度） なお、不明な箇所は、必ず担当教員に質問して自ら学びを深める。
課題に対する フィードバック	各課題テーマのプレゼンテーションや質問について、優れている箇所や改善が必要な点などを理由を付して都度講評する。
評価方法・基準	各課題テーマに対して理解度および発表力（50点）を、その他については質問の的確さおよび受講態度等（50点）を総合的に評価する。
テキスト	受講生各自の課題テーマについて、第1回授業で発表、配布する。
参考書	各回の課題に関する書籍・論文等を適宜紹介する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ						授業形態		演習	
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員			アクティブ ラーニング	
担当教員名	山口 雅篤									
授業概要	学生の選択した卒業論文のテーマに対して、論文作成に関連する総説と引用文献について欧文も含めて演習形式（読解）で解説する。論文作成で考察に必要とされる概念についても解説を行う。									
関連する科目	履修前に植物学、植物生理・生化学、園芸利用学および植物バイオ・育種実験を受講することが望ましい。									
授業の進め方 と方法	植物の二次代謝成分の中でヒトの嗜好性や機能性に関係する成分として、フラボノイド類、アントシアニン色素およびリグナン類に着目して、これらの種類、構造、分布および生合成について今までの復習をかねて解説し、さらに卒業論文の引用文献となる関連論文（和文と英文）の読解を行う。英文については、講義毎に英訳を資料として配付する。									
授業計画 【第1回】	第1回 植物の二次代謝成分 植物の二次代謝成分の種類、構造、分布について解説する。									
授業計画 【第2回】	第2回 植物の二次代謝成分の論文解説 関連論文の総説を紹介し読解する。									
授業計画 【第3回】	第3回 フラボノイド類 フラボノイド類の種類と構造について解説する。									
授業計画 【第4回】	第4回 フラボノイド類の論文解説 関連論文の総説を紹介し読解する。									
授業計画 【第5回】	第5回 二次代謝成分の生合成 二次代謝成分の生合成経路について解説する。									
授業計画 【第6回】	第6回 二次代謝成分の生合成経路の論文解説 関連論文の総説を紹介し読解する。									
授業計画 【第7回】	第7回 フラボノイド類の生合成 フラボノイド類の生合成経路について解説する。									
授業計画 【第8回】	第8回 フラボノイド類の生合成の論文解説 関連論文の総説を紹介し読解する。									
授業計画 【第9回】	第9回 アントシアニン色素 アントシアニン色素の種類と構造について解説する。									
授業計画 【第10回】	第10回 アントシアニン色素の論文解説 関連論文の総説を紹介し読解する。									
授業計画 【第11回】	第11回 アントシアニン色素の生合成 アントシアニン色素の生合成経路について解説する。									

授業計画 【第12回】	第12回 アントシアニンの生合成の論文解説 関連論文の総説を紹介し読解する。
授業計画 【第13回】	第13回 リグニン類 リグニン類の種類と構造について解説する。
授業計画 【第14回】	第14回 リグナン類の生合成の論文解説 関連論文の総説を紹介し読解する。
授業計画 【第15回】	第15回 まとめ 植物の二次代謝成分の中で特にアントシアニン色素とリグニン類について、嗜好性と機能性の成分育種について解説し議論する。
授業の到達目標	卒業論文をまとめる上で必要とされる関連論文の内容を把握し、その内容を実験結果の考察や実験の背景、目的等をまとめるために活用することが、学生に課せられます。そのために、論文の内容を把握し引用する方法についての理解を深めるようにします。
学位授与の方針 (DP) との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)
授業時間外の学修 【予習】	・講義前に配付される資料や論文について、約2時間の予習を行うことが望ましい。
授業時間外の学修 【復習】	・講義後に論文の要約をして、卒業論文の引用の準備をし、さらに、英文の論文については英訳と資料とを参考にして約2時間の復習をすることが望ましい。
課題に対する フィードバック	・英文の論文については、講義毎に英訳の資料と配付する。 ・和文の論文については、講義後に要約の資料を配付する。
評価方法・基準	定期試験（100点）によって評価する。
テキスト	なし（必要に応じて適宜、参考資料としてプリントを配布する）
参考書	アントシアニン 大場理一郎ら著 建帛社（2002） 植物色素研究法 植物色素研究会 OMUP（2004） 園芸生理学 山本昭平著 文永堂出版（2009） 植物色素フラボノイド 武田幸作ら編（2013） 植物代謝生化学 水谷正治ら編 羊土社（2019）
備考	

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ						授業形態		演習	
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	新谷 喜紀									
授業概要	この科目の主な目的は、各自が文献紹介をすることによって、プレゼンテーション能力を高めることです。また聞く側にとっては知識を伸ばすだけではなく、他人のプレゼンテーションから、プレゼンテーションの技法について啓発されることが期待できます。紹介する文献は学術雑誌やインターネット上のもので、教員と相談して決めます。卒業論文のテーマが決まっていれば、関連性の深い文献を選ぶようにします。									
関連する科目	この科目を履修する前に、昆虫学、自然環境実習、動物分類学、動物生態学、有害動物各論、動物生理学、その他自然環境系の科目を履修していることが望ましいです。									
授業の進め方 と方法	この講義では、卒業論文作成に必要な力を磨くために、専門的な文献について勉強し、パワーポイントを使用したり、紙媒体の資料を作成し、研究室内で文献紹介の発表を行ってもらいます。文献は教員と相談しながら選びます。通常3～10ページ程度です。発表内容についての質疑応答の時間があります。研究テーマを考えるために、文献を読み、発表を行う。									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション ゼミの進め方の説明									
授業計画 【第2回】	論文（文献）の種類について									
授業計画 【第3回】	論文（文献）の構成について									
授業計画 【第4回】	論文（文献）の検索方法について									
授業計画 【第5回】	論文（文献）の管理方法について									
授業計画 【第6回】	発表									
授業計画 【第7回】	発表									
授業計画 【第8回】	発表									
授業計画 【第9回】	発表									
授業計画 【第10回】	発表									
授業計画 【第11回】	発表									

授業計画 【第12回】	発表
授業計画 【第13回】	発表
授業計画 【第14回】	発表
授業計画 【第15回】	発表
授業の到達目標	・主に動物の生理や生態、害虫防除法、環境問題に関する知識を深め、文献読解能力を習得すること。 ・プレゼンテーション能力を身につけること。
学位授与の方針 (DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	文献について説明できるように勉強し、スライドや資料を作成するなど、発表の準備をする。
授業時間外の学修 【復習】	
課題に対する フィードバック	理解や説明が不十分だった点について補足を行ったり、プレゼンテーション技術について講評を行ったりする。
評価方法・基準	文献の内容の理解度とプレゼンテーション習熟度
テキスト	
参考書	酒井聡樹（2017）　これからレポート・卒論を書く若者のために　第2版　共立出版
備考	

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態				
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	陳 蘭庄									
授業概要	園芸生産環境専攻にかかわる国内外の研究論文を中心に輪読し、そのバックグラウンドや研究手法、研究成果について総合的に理解・習得することを目的としている。特に植物の種類には捉われず、幅広く吸収・活用できるようになるよう、目標としている。この講義の内容は、これまで本研究室で実際に行ってきた研究内容なので、これまでに得られた研究成果を発表してきた学会要旨や学術論文を交えながら、グループ討議や、実際の発表した学術論文を使って、目標をはっきりさせ、実験計画の立案から、計画の実施、結果のまとめ、論文の書き方まで、リアリティをもって教育する。									
関連する科目	履修前後には「蔬菜園芸総論」、「蔬菜園芸各論」、「園芸植物育種概論」、「植物分子育種学」を中心に、園芸生産環境専攻の必須科目および選択必須科目を履修したうえ、卒業研究テーマを実施するため、関連する知識やスキルを専攻演習で学ぶ。									
授業の進め方 と方法	研究室で進めているそれぞれの研究テーマを例として、計画に沿って自分自身の中間発表を毎回1～2人に発表させ、聞いた人は発表内容について、質問したり、アドバイスをしたりする。そういうことをして、初めて自分の研究テーマにもフィードバックでき、参考になったりしてスムーズに自分の研究テーマを進めることに繋がる。と同時に、他人の研究テーマについても勉強でき、将来的に就職にも繋がる。									
授業計画 【第1回】	以下の内容で講義を行う。ここから各自の卒業研究テーマに沿って論文を選び、活用して自分の卒論に用いる。 第1回～第3回 卒業論文の諸論の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた緒論を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第2回】	第1回～第3回 卒業論文の諸論の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた緒論を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第3回】	第1回～第3回 卒業論文の諸論の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた緒論を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第4回】	第4回～第6回 卒業論文の実験材料及び方法の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験材料及び方法を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第5回】	第4回～第6回 卒業論文の実験材料及び方法の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験材料及び方法を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第6回】	第4回～第6回 卒業論文の実験材料及び方法の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験材料及び方法を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第7回】	第7回～第9回 卒業論文の実験結果の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第8回】	第7回～第9回 卒業論文の実験結果の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第9回】	第7回～第9回 卒業論文の実験結果の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第10回】	第10回～第12回 卒業論文の実験結果に対する考察の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果に対する考察を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									
授業計画 【第11回】	第10回～第12回 卒業論文の実験結果に対する考察の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果に対する考察を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）									

授業計画 【第12回】	第10回～第12回 卒業論文の実験結果に対する考察の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果に対する考察を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）
授業計画 【第13回】	第13回～第15回 卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などの書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などを発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）
授業計画 【第14回】	第13回～第15回 卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などの書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などを発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）
授業計画 【第15回】	第13回～第15回 卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などの書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などを発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）
授業の到達目標	講義で解説したそれぞれの課題を例にして、履修生自身が自分の研究に対して、研究計画の立案、材料および方法、データのまとめ、図表の作成、結果に対する考察・評価など、研究論文の書き方に関した一連のノウハウを活用して自分の卒業論文のシミュレーションをレポートとして作成できることを目標とする。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外の学修 【予習】	事前に配った資料やプリント、指定した教科書または参考書、本授業とかかわりのある新聞記事や科学雑誌等をもって、予習すること。事前の勉強する時間は30分くらいあれば考える。
授業時間外の学修 【復習】	また、授業の内容について、分かったことやわからなかったことをはっきりさせ、配られた資料やノートを再点検してわからなかったことを自ら解決する。それでもわからない場合、図書館から関連図書を調べたりインターネットを使ったりして解けるようにする。どうしてもわからない時は、先生に直接聞いてみる。わからなかったことを貯めることなく、すぐに解決することを勧める。事後の勉強する時間は30分くらいあれば考える。
課題に対する フィードバック	それぞれの研究テーマの中間発表を毎回1～2人に発表させ、聞いた人は発表内容について、質問したり、アドバイスをしたりする。レポートは評価後、返却及び解説をする。
評価方法・基準	卒業論文の新規性（20%）、内容（20%）、まとめ方（20%）、完成度（20%）、発表（20%）などを総合的に評価する。
テキスト	特になし。
参考書	随時、指示または指定する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態		演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	林 典生									
授業概要	本授業の目的は、社会園芸領域についてさまざまな視点から資料を収集し、プレゼンテーションすることを通して、卒業研究の準備へとつなげる。 授業では、社会園芸に対する各自の興味関心を基に資料を収集し、課題に取り組み、議論を通して学びを深める。									
関連する科目	履修前に専攻演習Ⅰ・Ⅱ、同時に卒業論文を履修すること。									
授業の進め方 と方法	基本的に授業は、アクティブラーニング方式によって実施する。 文献レビュー及び調査等の研究方法の講義を行うとともに、それらに関連するグループ学習、ディスカッションや課題発表（問題解決学習、プレゼンテーション）等を行う。									
授業計画 【第1回】	オリエンテーションー授業概要の説明 ゼミの進め方を理解し、各自の興味関心を探る。									
授業計画 【第2回】	追加調査等の実施 専攻演習Ⅱで設定した追加調査等を実施する。									
授業計画 【第3回】	追加調査等の解析 実施した追加調査等の解析を行う。									
授業計画 【第4回】	追加調査等の結果報告 解析を行った結果をまとめて、報告を行う。									
授業計画 【第5回】	調査報告等準備-図書館資料・論文等の資料収集 調査結果を報告するにあたり、追加する資料・論文の収集を行う。									
授業計画 【第6回】	追加資料・論文の発表・討論 追加収集した資料・論文に関するグループディスカッションを実施し、理解を深める。									
授業計画 【第7回】	中間発表 調査結果を報告し、今後の論文作成のための意見交換を行う。									
授業計画 【第8回】	論文作成準備 中間発表会の意見を踏まえ、調査結果等の整理を行う。									
授業計画 【第9回】	論文作成 整理した調査結果等に基づき、論文作成を行う。									
授業計画 【第10回】	論文内容検討 各自で作成した論文について発表を行い、意見交換を行う。									
授業計画 【第11回】	卒業論文内容修正 意見交換に基づき、卒業論文内容の修正を行う。									

授業計画 【第12回】	卒業論文概要集・発表会資料作成 修正した卒業論文内容を踏まえ、卒業論文概要集及び発表会資料を作成する。
授業計画 【第13回】	卒業論文概要集・発表会資料修正 作成した卒業論文概要集及び発表会資料を発表練習して、修正を行う。
授業計画 【第14回】	卒業論文発表会 修正した卒業論文概要集・発表会資料に基づき、卒業論文発表会を行い、意見交換を行う。
授業計画 【第15回】	卒業論文修正・確認 卒業論文発表会時の意見交換に基づき、卒業論文修正を行い、確認を行う。
授業の到達目標	1. 環境園芸学における社会園芸の知識と技術及び価値の応用的内容を修得する。【教養・専門分野の知識・理解】【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】【自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力の態度・志向性の涵養】【統合的な学習経験と創造的思考力の養成】 2. 口頭発表を通じてプレゼンテーション能力や集団討論を通じてディスカッション能力も含む総合的なコミュニケーション能力を向上させる。【教養・専門分野の知識・理解】【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】【自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力の態度・志向性の涵養】【統合的な学習経験と創造的思考力の養成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外の学修 【予習】	授業で配布するテキストならびに参考図書・論文等の資料を授業前に精読し準備する。
授業時間外の学修 【復習】	授業後にさらに理解を深めるために授業で配布したテキストならびに参考図書・論文等の資料を再度精読する。
課題に対する フィードバック	レポートは評価後、返却ならびに解説を行う。
評価方法・基準	発表・研究した内容に関するレポート（100%）、但し欠席・遅刻・早退及び私語等の悪い授業態度は注意の上、減点とする。
テキスト	専攻演習時に別途資料を配布し、それに基づき実施する。
参考書	学習技術研究会編著 知へのステップ第4版 くろしお出版 2018 高木隆司著 理科系の論文作法 丸善 1997 その他の文献は授業中に紹介する。
備考	この授業は第1回目開始前に受講生同士で話し合っ、実施曜日・時限を決めて行う。また、一部の授業は事前に連絡の上、別途日時を設けて実施する場合がある。 先方との都合次第により外部講師との意見交換や実践現場視察・活動体験等を行う場合がある。

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態		演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	杉田 亘									
授業概要	植物遺伝学、園芸植物育種学、園芸植物細胞工学、植物バイオ・育種演習、植物バイオ・育種実験等の専門科目や教養科目で習得した知識に加え、専攻演習ⅠおよびⅡで習得した力を基に、国内外の育種学関連学会和文紙および英文誌に掲載された研究論文を読み進め、卒業論文の引用文献に加えるとともに、自らの卒業論文を作成する力を養います。また、論文に書かれた内容をまとめて専攻生の前で自らの言葉で簡潔に発表する力を高め、ビジネス社会で必要なプレゼンテーション能力を養います。卒論テーマに即した内容の論文を通して実験で扱う植物種に関連する実験手法、解析技術などの理解を深めます【知識・理解の獲得】。									
関連する科目	履修前に植物遺伝学、園芸植物育種学、園芸植物細胞工学、植物バイオ・育種演習、植物バイオ・育種実験、専攻演習Ⅰ・Ⅱを受講していることが望ましい。									
授業の進め方 と方法	育種学的テーマに基づき、専攻演習Ⅰ・Ⅱで習得した力を基に国内の育種学関連学会和文誌および英文紙に掲載された研究論文を読み進めプレゼンテーションを行います。その内容に基づき、議論を深化させるとともに、育種法や育種技術に関連した話題についてのディベートを積極的に行い、論理的思考の構築、コミュニケーション能力の強化を図ります。また、遺伝育種学、バイオテクノロジーに関して自分の言葉で簡潔に発表する力を養います。									
授業計画 【第1回】	第1回 育種演習Ⅲの概要：本演習に係る概要を説明する。									
授業計画 【第2回】	第2回 研究計画再検討 1：育種材料をの検証する。									
授業計画 【第3回】	第3回 研究計画再検討 2：育種方法をの検証する。									
授業計画 【第4回】	第4回 論文読解 1：研究対象植物種に関する研究について学習する。									
授業計画 【第5回】	第5回 論文読解 2：研究対象の近縁植物種に関する研究について学習する。									
授業計画 【第6回】	第6回 論文読解 3：遺伝分析に関する研究について学習する。									
授業計画 【第7回】	第7回 論文読解 4：育種技術に関する研究について学習する。									
授業計画 【第8回】	第8回 論文読解 5：バイオテクノロジーに関する研究について学習する。									
授業計画 【第9回】	第9回 論文読解 6：統計解析に関する研究について学習する。									
授業計画 【第10回】	第10回 論文読解 7：最新情報への更新について議論する。									
授業計画 【第11回】	第11回 第二次中間検討 1：結果とデータ解析手法について学習する。									

授業計画 【第12回】	第12回 第二次中間検討 2：考察・引用文献の記述法について学習する。
授業計画 【第13回】	第13回 論文構成と組立てについて学習する。
授業計画 【第14回】	第14回 今後の研究の展望について議論する。
授業計画 【第15回】	第15回 総合考察：得られたデータに基づく総合討論を行う。
授業の到達目標	園芸植物の育種に関する課題を中心に科学論文について、論文の様式、論文を読み取る力、要点をまとめる力、明確に発表する力を養い、研究遂行のための基礎力を習得します。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外の学修 【予習】	授業前：卒論テーマに関連する学会誌に掲載された研究論文を読み込んでください（毎回1-2時間程度）
授業時間外の学修 【復習】	授業後：卒論の引用文献として蓄積をしてください（毎回0.5時間程度）
課題に対する フィードバック	受講者に対して授業中に質問を行い、受講者自身の理解度の確認を行うとともに、内容について説明を行います。また、その結果に基づき、授業内容の確認を行います。
評価方法・基準	各回の発表について、ポイントの把握と理解度、問題解決力、発表能力、質問への応答の的確さを評価します。
テキスト	育種学会誌（Breeding Science, 育種学研究） 園芸学会誌（The Horticulture Journal, 園芸学研究）他
参考書	植物育種学辞典 日本育種学会 培風館(2005)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ						授業形態		演習	
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	長江 嗣朗									
授業概要	卒業論文で行う研究と関連した論文を読み解き、資料を作成して発表する。これを元にゼミ参加者で議論を行い、自分の研究に反映させる。論文作成に当たり、問題点や課題点について考察することにより、今後の自分自身の課題等を解決できることを目指す。									
関連する科目	3年後期『専攻演習Ⅰ』、4年前期『専攻演習Ⅱ』、4年通年『卒業論文』									
授業の進め方 と方法	授業では資料を配布し、グループディスカッションを行う。また配布する資料については、学生が持ち回りで作成する場合もある。									
授業計画 【第1回】	はじめに									
授業計画 【第2回】	第2回：鉢物生産における文献紹介①									
授業計画 【第3回】	鉢物生産における文献紹介②									
授業計画 【第4回】	苗物生産における文献紹介									
授業計画 【第5回】	切り花生産における文献紹介①									
授業計画 【第6回】	切り花生産における文献紹介②									
授業計画 【第7回】	卒業論文の中間発表① 専攻生が持ち回りで発表する。									
授業計画 【第8回】	卒業論文の中間発表② 専攻生が持ち回りで発表する。									
授業計画 【第9回】	卒業論文の中間発表③ 専攻生が持ち回りで発表する。 第7～9回は、それぞれが取り組んでいる卒業論文についてお互いに状況を報告し合い、今後の実験の進め方を議論する。									
授業計画 【第10回】	希少植物に関する文献紹介① 日本において現在その存在が少なくなっているものに関する植物紹介。									
授業計画 【第11回】	希少植物に関する文献紹介② 日本において絶滅の危機に瀕している植物を紹介するとともにその対策を検討する。									

授業計画 【第12回】	切り花の鮮度保持に関する文献紹介① バラ切り花の鮮度保持について。
授業計画 【第13回】	切り花の鮮度保持に関する文献紹介② カーネーションの鮮度保持について。
授業計画 【第14回】	切り花の鮮度保持に関する文献紹介③ バラ、カーネーション以外の切り花鮮度保持について。
授業計画 【第15回】	まとめ
授業の到達目標	人前で論文を説明することができる。【コミュニケーションスキルの育成】 論文を十分に理解し、それを元に自分の研究を計画できるような能力を身につける。【知識・理解の獲得】、【生涯学習力の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	発表要旨をまとめ、さらにわからない箇所を調べておく。予習に2時間。
授業時間外の学修 【復習】	発表を聴講しても理解できなかったことを自分自身で調べる復習に1時間。
課題に対する フィードバック	発表時における説明不足、発表後に調べても理解できなかったことは、次回以降の授業で解説する。
評価方法・基準	発表要旨のまとめ方、発表時の態度など、取り組み方を総合的に評価する。
テキスト	なし
参考書	なし
備考	

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態		演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	学年指定なし	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	関西 剛康									
授業概要	専攻演習Ⅲでは専攻演習Ⅰ・Ⅱを発展させて、造園学における造園計画やフィールドワークの知識と技術の実践を学ぶ。そして、造園計画が必要とされている社会的課題について学び、その解決策について考える。さらに、造園計画を通じて各自の専門職業人としての専門性を磨いていくために、ワークショップ・グループワーキング・フィールドワークも行う。 また、教員は技術士（総合技術監理部門、建設部門〔都市及び地方計画〕）や登録ランドスケープアーキテクト（RLA）等の有資格者であり、造園設計事務所において国内外の100件を超える都市公園や庭園プロジェクトに参画した20年間の経験がある。それらのキャリアを含めて、教員が実際に計画設計した造園作品の具体的な事例を解説しながらも授業を進める（現在は文化庁文化審議会専門委員、宮崎県美しい宮崎づくり推進有識者会議長、宮崎県景観まちづくりアドバイザー、宮崎市花のまちづくりコンクール審査委員長、宮崎グリーンインフラ研究会会長ほか多数を歴任）。									
関連する科目	履修前に「環境園芸概論」「環境園芸実験実習Ⅰ」「環境園芸実験実習Ⅱ」「造園学概論」「造園植栽論」「敷地計画論」「都市緑地論」「専攻演習Ⅰ」「専攻演習Ⅱ」「卒業論文」を履修すること。									
授業の進め方 と方法	基本的に授業は、アクティブラーニング方式を取り入れて実施する。毎回の授業構成は以下のとおりである。 ①授業前半は講義を行う【学術・知識のインプット】 ②授業後半はグループ学習、ディスカッションや課題発表（問題解決学習、プレゼンテーション）等を行う【学術・知識の醸成とアウトプット】									
授業計画 【第1回】	専攻演習Ⅲの概要説明と心得 （専攻演習Ⅲの概要説明と心得について説明する）									
授業計画 【第2回】	造園計画の学術研究-1（学術研究について） （造園計画に関する学術研究の基礎を学ぶ）									
授業計画 【第3回】	造園計画の学術研究-2（学術研究の計画） （造園計画に関する学術研究の基礎を学ぶ）									
授業計画 【第4回】	造園計画の学術研究-3（学術研究の精度） （造園計画に関する学術研究の基礎を学ぶ）									
授業計画 【第5回】	造園計画の学術研究-4（学術研究の実践） （造園計画に関する学術研究の基礎を学ぶ）									
授業計画 【第6回】	造園計画の学術研究-5（学術研究の精査） （造園計画に関する学術研究の基礎を学ぶ）									
授業計画 【第7回】	造園計画の研究成果とその応用-1（研究と応用について） （造園計画に関する学術研究の成果とその応用を学ぶ）									
授業計画 【第8回】	造園計画の研究成果とその応用-2（研究成果の精査） （造園計画に関する学術研究の成果とその応用を学ぶ）									
授業計画 【第9回】	造園計画の研究成果とその応用-3（研究成果の利用） （造園計画に関する学術研究の成果とその応用を学ぶ）									
授業計画 【第10回】	造園計画の研究成果とその応用-4（研究成果の分析） （造園計画に関する学術研究の成果とその応用を学ぶ）									
授業計画 【第11回】	造園計画の研究成果とその応用-5（研究成果の考察） （造園計画に関する学術研究の成果とその応用を学ぶ）									

授業計画 【第12回】	研究成果の発表法-1（研究発表の手法） （研究発表の手法を学ぶ）
授業計画 【第13回】	研究成果の発表法-2（ディスカッション・プレゼンテーション） （研究発表の手法を学ぶ）
授業計画 【第14回】	研究成果のまとめ方について （ランドスケープ研究に関する全体像を把握する）
授業計画 【第15回】	専攻演習Ⅲのまとめと今後 （ランドスケープ研究に関する全体像を把握する）
授業の到達目標	①造園学における造園計画の知識と技術の実践的内容を修得することを目的とする。 ②また口頭発表を通じてプレゼンテーション能力や、集団討論を通じてディスカッション能力を向上させ、総合的なコミュニケーション能力の向上を目的とする。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	①授業で配布する学術論文や造園作品資料等を授業前に精読すること。 ②演習授業であるため、事前に参考となる資料を準備すること。 ③予習は1時間程度行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	①授業後にさらに理解を深めるために学術論文や造園作品資料等を再度精読すること。 ②復習は1時間程度行うこと。
課題に対する フィードバック	レポートは評価後、返却期間をもうけて返却ならびに解説する。
評価方法・基準	①研究課題に関するレポート（100点） ②授業への取り組みも評価（授業態度によってはマイナス評価も行う）
テキスト	テキストは使用しないが、その代わりに適宜プリント資料を配布する。
参考書	①（公社）日本造園学会：ランドスケープ研究（学会誌） ②（公社）日本造園学会：ランドスケープ研究作品集（学会誌）
備考	造園計画研究室（関西研1）における研究領域の概要は以下の通りである。まずは、SDGs（持続可能な開発目標）を基本に、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりを進める「グリーンインフラ」の視点に立ち、地域活性化や持続可能な都市経営を考えたランドスケープについて研究している。例えば、地域の課題解決型をテーマに、実際にフィールドワークによって現状の課題について調査分析を実施し、地域の方との協働で考察を行い、新たな社会資本やその体制をランドスケープの社会実装を推進

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ						授業形態			
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	平岡 直樹									
授業概要	本授業の目的は、地域景観学を深めていく上での応用科目として位置づけられ、研究者として要求される知識・技能・計画 性・情報収集能力・計算能力を高めることである。 景観関連の学協会誌・テキストによる演習や事例紹介・現地 見学を中心的行う。 卒業論文執筆に必要な認識力や表現力ならびにプレゼンテーションの基礎的能力を身につけることが期待される。									
関連する科目	造園学概論に始まる造園専門科目群、専攻演習Ⅰ、専攻演習Ⅱ、卒業論文が一連の授業体系を構成している。									
授業の進め方 と方法	まず造園の基礎的概念や用語を復習します。続いて研究とはどのようなものでどのように行うのかを実際の研究を参考にしながら学ぶ。同時に、論文の書き方や注意点などのについても学んでいく。 ほとんどの授業にてテーマに沿ってまとめた課題を報告し、意見交換をするなどアクティブラーニング型の授業を行う。									
授業計画 【第1回】	ガイダンス 演習の進め方、参考文献の紹介、言葉の定義の確認									
授業計画 【第2回】	景観論の歴史的展開 都市計画の進展とのかかわりを軸に説明									
授業計画 【第3回】	景観論の現状 昨今の景観についての社会的位置づけの考察									
授業計画 【第4回】	景観研究の現状 学会論文等を中心に研究の展開を考察									
授業計画 【第5回】	景観研究の事例 認知科学分野									
授業計画 【第6回】	景観研究の事例 色彩分野									
授業計画 【第7回】	景観研究の事例 その他分野									
授業計画 【第8回】	景観研究 景観実地調査1									
授業計画 【第9回】	景観研究 景観実地調査2									
授業計画 【第10回】	景観研究 データ整理									
授業計画 【第11回】	景観研究 データ分析									

授業計画 【第12回】	地域と景観研究 文献講読
授業計画 【第13回】	地域と景観研究 現況調査
授業計画 【第14回】	地域と景観研究 写真比較（変遷景観）
授業計画 【第15回】	地域と景観研究の今後 まとめ
授業の到達目標	1) 地域景観について体系的に学び、地域とはどんなものか、景観が地域の中でどのような役割を果たしているかを知る。【専門分野のスキル】 2) 地域景観の調査や計画にかかわる専門職業人として必要な基礎的知識や技術を学び、持続可能な循環型社会の実現に向けた課題発見と問題解決をはかる手がかりを身につける。【課題発見・分析・解決力】 3) 演習を通じて、現状の認識力や表現力、グループ作業による協調性ならびにプレゼンテーション能力など、技術者として不可欠な素養を高める。【プレゼンテーション力】【実践力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	第1回目の授業で示す参考図書など基礎的な地域論や景観論、造園学に関する資料を授業前に読んでおく。また、自らの地域や景観についての知見を深め、景観の社会的意義を理解するために、身近な地域社会や自然地に赴き、その成り立ちや社会的位置づけなどについて考察を深めておく。ゼミ発表時は発表資料等を準備する。(約1時間)
授業時間外の学修 【復習】	第1回目の授業で示す参考図書など基礎的な地域論や景観論、造園学に関する資料について、授業後に理解が曖昧な時は確認しておく。(約0.5時間)
課題に対する フィードバック	課題は、提出前にチェックを受けること。次回以降に返却する。必要に応じてコメントや書き込みを行う。
評価方法・基準	毎回の演習に対する進捗度、理解度を評価する。
テキスト	授業中において配布する資料及び紹介又は指示する書籍
参考書	第1回目の授業（ガイダンス）において紹介する。主なものの一部を以下に示す。 ①篠原修編・景観デザイン研究会『景観用語事典 増補改訂版』彰国社、2007 ②福井幸夫、空京子『社会基盤整備のための景観設計学 脳から環境の美しさを考える』コロナ社、2006 など ③後藤春彦：景観づくり論、学芸出版社、2007
備考	演習の実施形態についてはガイダンス時に説明する。

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態		演習	
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング
担当教員名	牧田 直子								
授業概要	専攻演習Ⅰ・Ⅱで習得した力を基に、研究を行いまとめる。 研究方法を確認し、分析結果をまとめながら要旨を記述する。 研究発表を行う。								
関連する科目									
授業の進め方 と方法	各研究の内容、進捗状況を毎回報告し、その内容や研究方法について議論を行う。 庭園調査、分析などを行う。（個別指導あり）								
授業計画 【第1回】	1 調査結果をまとめる① 調査内容を表や図にまとめ分析結果を記述したものを発表する。 結果の修正や分析が足りていないものについて指導する。								
授業計画 【第2回】	2 調査結果をまとめる② 1で修正したものを発表する。 結果の修正や分析が足りていないものについて指導する。 データ分析方法、エクセルの活用方法を指導する。								
授業計画 【第3回】	3 プレゼンテーション手法① グラフや表を作成する。プレゼン用のデータを選択する。見せ方、表現方法を指導する。								
授業計画 【第4回】	4 プレゼンテーション手法② プレゼンテーション資料を作成し発表する。見せ方、表現方法と話し方を指導する。								
授業計画 【第5回】	5 中間発表 卒論の中間発表を行い、指摘を受けた修正点や改善点について指導する。								
授業計画 【第6回】	6 追加調査① 追加調査を行う。調査方法などは個別指導する								
授業計画 【第7回】	7 論文における文章の書き方1：論文のマナー 本文、要旨を作成する際に気を付けることなどを指導する								
授業計画 【第8回】	8 論文における文章の書き方2：要旨作成 要旨を作成し添削する。								
授業計画 【第9回】	9 卒業研究①：研究の目的の明確化 チェックリストを基に自身の研究についてチェックする。								
授業計画 【第10回】	10 卒業研究②：本文作成 データの保管、既往研究のまとめ方、参考文献のまとめ方								
授業計画 【第11回】	11 卒業研究③：研究方法の妥当性 本文の作成。書き方の指導及び内容について添削指導する								

授業計画 【第12回】	12 卒業研究④ 本文の提出。書き方の指導及び内容について添削指導する
授業計画 【第13回】	13 卒業研究⑤ 要旨作成、添削指導する
授業計画 【第14回】	14 卒業研究⑥：本文と要旨 本文、要旨の提出、添削指導する
授業計画 【第15回】	15 総括 卒論発表会で発表する
授業の到達目標	卒業論文を作成するための基本を学んで論文構成力を養い、調査結果から事実を把握する力、考察する力、要点をまとめる力、明確に話す力を養い、文章力とプレゼンテーション能力を高める。 【専門分野のスキル】【課題発見・分析・解決力】【プレゼンテーション力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	調査データ入力、分析、本文作成など（目安は週5日は1日あたり3時間以上）。
授業時間外の学修 【復習】	添削後の修正、調査データ入力、分析、本文作成など（目安は週5日は1日あたり3時間以上）。
課題に対する フィードバック	添削指導
評価方法・基準	各回の発表、研究のスケジュール管理、成果物で評価する（全体で100%）。
テキスト	
参考書	
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称	専攻演習Ⅲ						授業形態		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員			アクティブ ラーニング
担当教員名	日高 英二								
授業概要	専攻演習Ⅱで行った卒業研究を引き続いて行う。調査研究の継続と中間報告で明らかになった新たな課題を補足する調査研究を行う。また、定期的に報告会を実施し、研究相互の意見交換を行う。データ整理や報告会を通じて必要な表計算ソフトやプレゼンテーションソフトの操作法を習得する。								
関連する科目									
授業の進め方 と方法	決定した卒業研究のテーマに従って調査研究を行う。要所でデータ分析や中間検討を行い、その結果をもとに調査研究の進め方の修正をする。								
授業計画 【第1回】	調査計画の再検討・修正								
授業計画 【第2回】	調査研究1：調査対象の細部調査1								
授業計画 【第3回】	調査研究2：調査対象の細部調査2								
授業計画 【第4回】	調査研究3：調査対象の細部調査3								
授業計画 【第5回】	調査研究4：調査対象の細部調査4								
授業計画 【第6回】	データ整理								
授業計画 【第7回】	中間報告会								
授業計画 【第8回】	補足調査・分析1								
授業計画 【第9回】	補足調査・分析2								
授業計画 【第10回】	データ分析1：作図								
授業計画 【第11回】	データ分析2：作表								

授業計画 【第12回】	中間検討1：結果とデータ分析
授業計画 【第13回】	中間検討2：考察・引用分析
授業計画 【第14回】	今後の研究の展望
授業計画 【第15回】	総合考察
授業の到達目標	調査研究を通じて情報収集能力・データ整理能力を高めることを目的とする。また、データ整理や発表会によって表現力やプレゼンテーション能力の向上させる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外の学修 【予習】	卒業研究のテーマに関する文献等を収集し、その内容を理解する。(週30分程度)
授業時間外の学修 【復習】	調査データの速やかな整理、図表作成を行う。(週30分程度)
課題に対する フィードバック	提出課題を評価後、返却し解説を行う。
評価方法・基準	調査研究進捗報告100点
テキスト	
参考書	研究関連文献
備考	

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態		演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	岡島 直方									
授業概要	専攻演習Ⅰは主として座学であったため、Ⅲにおいては県内外の公園や庭園などの緑地や、様々な屋外、室内空間を訪れて、実際の空間を体験しながら、その空間構成や特徴について学ぶ。それぞれの場所やそこにある風物から感じたことなどを話し合い共有しながら、短時間で自分の意見をまとめたり、自分の感じたことを他者に言葉やスケッチを描いて伝える練習などを行う。学生の関心に応じて、キャンパス内で緑地施工管理の演習を行う。									
関連する科目	「造園学概論」に始まる造園専門科目群、「専攻演習Ⅰ」「専攻演習Ⅱ」「専攻演習Ⅲ」「卒業論文」が一連の授業体系を構成している。									
授業の進め方 と方法	教室で座学的に実施する演習、樹林地やフィールドなどで演習や実習を行う。 内容については年度の現状に合わせて変わる場合がある。									
授業計画 【第1回】	対象地について1 現状確認を行います。									
授業計画 【第2回】	対象地について2 必要な管理の実践を行います。									
授業計画 【第3回】	対象地について3 必要な管理の実践3を行います。									
授業計画 【第4回】	対象地について4 必要な管理の実践4を行います。									
授業計画 【第5回】	対象地について5 必要な管理の実践5を行います。									
授業計画 【第6回】	対象地について6 対象地に必要な管理の実践6を行います。									
授業計画 【第7回】	対象地について 今年度の提案事項を検討します。									
授業計画 【第8回】	対象地について 提案事項について具体的アクションを行います。									
授業計画 【第9回】	対象地について 提案事項について具体的アクションを行います。									
授業計画 【第10回】	対象地について 提案事項について具体的アクションを行います。									
授業計画 【第11回】	対象地について 提案事項について具体的アクションを行います。									

授業計画 【第12回】	対象地について 提案事項について具体的アクションを行います。
授業計画 【第13回】	対象地について 提案事項について具体的アクションを行います。
授業計画 【第14回】	対象地について 提案事項について具体的アクションを行います。
授業計画 【第15回】	まとめ まとめを行います。
授業の到達目標	1. 卒業論文を作成するための基本を学んで論文構成力を養う。【専門分野のスキル】 2. 調査結果から事実を把握する力、考察する力、要点をまとめる力を身につける。 【課題発見。分析・解決力】【実践力】 3. 明確に話す力を養い、文章力とプレゼンテーション能力を高める。 【プレゼンテーション力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外の学修 【予習】	事前の資料を読んで内容を把握する。(30分程度)
授業時間外の学修 【復習】	当日の内容に、調べたことを付け足してメモしておく。(30分程度)
課題に対する フィードバック	討論や打ち合わせの時に、各自の取り組みに対するコメントを行う。
評価方法・基準	レポート(50点)、発表(50点)
テキスト	「庭のデザインと設計」、星進、池田書店、1975 「雑木林が創り出した景色」、岡島直方、2005
参考書	「眼を養い手を練れ」、宮脇塾講師室編著、彰国社、2003 「旅でスケッチしませんか」、永沢まこと、講談社、1998
備考	卒業論文、卒業施工・設計の報告書などを書く時に必要となるまとめ方の基礎に取り組む。

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ						授業形態	演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	中野 光議									
授業概要	本演習では、各自の卒業研究の進捗、および成果を発表します。発表内容について、担当教員と受講生全員で議論します。また、各自の研究テーマと関係が深い論文を読み、その論文の内容を批判しながら自分の考えを深めます。									
関連する科目	専攻演習Ⅰ、専攻演習Ⅱの受講を終えている必要がある。同時期に卒業研究を履修している必要がある。									
授業の進め方 と方法	各自の研究の計画と進捗を発表します。毎回1～2名の学生が発表し、受講学生全員と教員で議論します。また、卒業研究と関係が深い論文を読み、レポートを作成します。									
授業計画 【第1回】	第1回 ガイダンス、研究の進捗の発表（1） 専攻演習Ⅲの進め方等について説明します。受講生1～2名が研究の進捗を発表します。									
授業計画 【第2回】	第2回 研究の進捗の発表（2） 受講生1～2名が研究の進捗を発表します。									
授業計画 【第3回】	第3回 研究の進捗の発表（3） 受講生1～2名が研究の進捗を発表します。									
授業計画 【第4回】	第4回 研究の進捗の発表（4） 受講生1～2名が研究の進捗を発表します。									
授業計画 【第5回】	第5回 研究の進捗の発表（5） 受講生1～2名が研究の進捗を発表します。									
授業計画 【第6回】	第6回 研究結果の発表（1） 受講生1～2名が、調査・実験の結果、およびデータ解析の結果を中心に研究全体を発表します。									
授業計画 【第7回】	第7回 研究結果の発表（2） 受講生1～2名が、調査・実験の結果、およびデータ解析の結果を中心に研究全体を発表します。									
授業計画 【第8回】	第8回 研究結果の発表（3） 受講生1～2名が、調査・実験の結果、およびデータ解析の結果を中心に研究全体を発表します。									
授業計画 【第9回】	第9回 研究結果の発表（4） 受講生1～2名が、調査・実験の結果、およびデータ解析の結果を中心に研究全体を発表します。									
授業計画 【第10回】	第10回 研究結果の発表（5） 受講生1～2名が、調査・実験の結果、およびデータ解析の結果を中心に研究全体を発表します。									
授業計画 【第11回】	第11回 研究成果の発表（1） 受講生1～2名が、研究の成果を発表します。									

授業計画 【第12回】	第12回 研究成果の発表(2) 受講生1~2名が、研究の成果を発表します。
授業計画 【第13回】	第13回 研究成果の発表(3) 受講生1~2名が、研究の成果を発表します。
授業計画 【第14回】	第14回 研究成果の発表(4) 受講生1~2名が、研究の成果を発表します。
授業計画 【第15回】	第15回 研究成果の発表(5) 受講生1~2名が、研究の成果を発表します。
授業の到達目標	1. 自分の研究の内容を正確に発表する方法を身につける。【汎用的技能の育成】 2. 研究について議論することで批判的思考力を養う。【汎用的技能の育成、態度・志向性の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	発表に使用する資料を作成します。
授業時間外の学修 【復習】	発表時の指摘を踏まえて研究計画や発表内容を推敲します。また毎週、各自で関心のある論文を1本以上読み、レポートを作成します。
課題に対する フィードバック	不明な点・疑問点については、日常的に助言や指導を行います。
評価方法・基準	受講態度(50%)とレポート(50%)で評価します。受講態度は、授業中の積極性で決めます。また、全ての受講生が3回以上発表する必要があります。
テキスト	なし
参考書	なし
備考	なし

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ						授業形態		演習	
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	姜　暲求									
授業概要	専攻演習Ⅱで得た知識を卒業論文作成に活用できるように、更に深化する。									
関連する科目	履修前：農業経済学、農産物流通原論、農産物流通論、専攻演習Ⅰ、専攻演習Ⅱ 履修と同時：卒業論文 履修後：									
授業の進め方 と方法	食料・農業に関するテーマをゼミ生が自主的に選び、発表する。また、ゼミのメンバーが議論する。									
授業計画 【第1回】	1。食料に関するテーマ									
授業計画 【第2回】	1。食料に関するテーマー続きー									
授業計画 【第3回】	1。食料に関するテーマー続きー									
授業計画 【第4回】	1。食料に関するテーマー続きー									
授業計画 【第5回】	1。食料に関するテーマー続きー									
授業計画 【第6回】	2。農業に関するテーマ									
授業計画 【第7回】	2。農業に関するテーマー続きー									
授業計画 【第8回】	2。農業に関するテーマー続きー									
授業計画 【第9回】	2。農業に関するテーマー続きー									
授業計画 【第10回】	2。農業に関するテーマー続きー									
授業計画 【第11回】	3。食料農産物貿易に関するテーマ									

授業計画 【第12回】	3。食料農産物貿易に関するテーマー続きー
授業計画 【第13回】	3。食料農産物貿易に関するテーマー続きー
授業計画 【第14回】	3。食料農産物貿易に関するテーマー続きー
授業計画 【第15回】	3。食料農産物貿易に関するテーマー続きー
授業の到達目標	食料・農業、食料農産物貿易を理解する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外の学修 【予習】	農林水産省 http://www.maff.go.jp/index.html 、日本貿易振興機構（ジェトロ） https://www.jetro.go.jp/ 、農畜産業振興機構 https://www.alic.go.jp/ 、FAO（国連食糧農業機構） http://www.fao.org/home/en/ などを検索し、知識化する。
授業時間外の学修 【復習】	農林水産省 http://www.maff.go.jp/index.html 、日本貿易振興機構（ジェトロ） https://www.jetro.go.jp/ 、農畜産業振興機構 https://www.alic.go.jp/ 、FAO（国連食糧農業機構） http://www.fao.org/home/en/ などを検索し、知識化する。
課題に対する フィードバック	教員も議論に参加する。
評価方法・基準	発表(50%)や討論(50%)で評価する。
テキスト	無い
参考書	農業および経済関連政府機関、研究機関のホームページ。WTOおよびFAOのホームページ。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態		演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	廣瀬 大介									
授業概要	本科目は、専攻演習Ⅱと同様な方法で講義を進め、単に人前で話すだけでなく、わかりやすく、納得してもらえる発表方法を学ぶことを目的に行う。									
関連する科目	履修前に専攻演習Ⅱを受講すること。履修後は履修を必要とする科目はない。									
授業の進め方 と方法	毎回、アクティブラーニング型授業を実施する。毎回の授業は、まず発表担当者が発表を行い、その後、受講者全員から質問を受け、それに対して発表者が明確、端的に答えていく方法で行う。									
授業計画 【第1回】	受講者による発表 名程度が担当する）。 ぶ。 (1回につき2～3 プレゼンテーションの方法を学									
授業計画 【第2回】	受講者による発表 名程度が担当する）。 ぶ。 (1回につき2～3 プレゼンテーションの方法を学									
授業計画 【第3回】	受講者による発表 名程度が担当する）。 ぶ。 (1回につき2～3 プレゼンテーションの方法を学									
授業計画 【第4回】	受講者による発表 名程度が担当する）。 ぶ。 (1回につき2～3 プレゼンテーションの方法を学									
授業計画 【第5回】	受講者による発表 名程度が担当する）。 ぶ。 (1回につき2～3 プレゼンテーションの方法を学									
授業計画 【第6回】	受講者による発表 名程度が担当する）。 ぶ。 (1回につき2～3 プレゼンテーションの方法を学									
授業計画 【第7回】	受講者による発表 名程度が担当する）。 ぶ。 (1回につき2～3 プレゼンテーションの方法を学									
授業計画 【第8回】	受講者による発表 名程度が担当する）。 ぶ。 (1回につき2～3 プレゼンテーションの方法を学									
授業計画 【第9回】	受講者による発表 名程度が担当する）。 ぶ。 (1回につき2～3 プレゼンテーションの方法を学									
授業計画 【第10回】	受講者による発表 名程度が担当する）。 ぶ。 (1回につき2～3 プレゼンテーションの方法を学									
授業計画 【第11回】	受講者による発表 名程度が担当する）。 ぶ。 (1回につき2～3 プレゼンテーションの方法を学									

授業計画 【第12回】	受講者による発表 名程度が担当する）。 ぶ。 (1回につき2～3 プレゼンテーションの方法を学
授業計画 【第13回】	受講者による発表 名程度が担当する）。 ぶ。 (1回につき2～3 プレゼンテーションの方法を学
授業計画 【第14回】	受講者による発表 名程度が担当する）。 ぶ。 (1回につき2～3 プレゼンテーションの方法を学
授業計画 【第15回】	受講者による発表 名程度が担当する）。 ぶ。 (1回につき2～3 プレゼンテーションの方法を学
授業の到達目標	単なる人前で話す方法を学ぶだけでなく、理解あるいは納得してもらえる話し方を体得する【汎用艇能力の育成】【志向性の育成】。
学位授与の方針 (DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外の学修 【予習】	人に理解してもらえるプレゼンテーションとは何かについて各自で勉強する（約1時間）。
授業時間外の学修 【復習】	プレゼンテーション時に指摘された事項について検討し、次回に備える（約1時間）。
課題に対する フィードバック	各プレゼンテーションに対して講評する。
評価方法・基準	プレゼンテーションの内容（50点）、質疑に対する対応力（50点）
テキスト	毎回、発表者が準備する。
参考書	論理的にプレゼンする技術、「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール
備考	

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態		演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	前田 隆昭									
授業概要	専攻生各自が、卒業論文テーマに対する国内外の文献を探して、その文献について詳しく紹介する。同時に卒論作成に当たり、その文献と考察との関連性についてもわかりやすく発表できるようになることを目的とする【汎用的技能の育成】。									
関連する科目	4年次前期の専攻演習Ⅱに引き続いて行う。									
授業の進め方 と方法	毎回、専攻生が各自の卒論に関する文献を紹介し、その内容を簡潔に発表する【汎用的技能の育成】。その後、ディスカッションしながら学びを深める。本授業は、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニング形式とする。									
授業計画 【第1回】	第1回 ガイダンス（スケジュール、評価、概要説明） 授業のスケジュールおよび評価方法、概要を説明する。									
授業計画 【第2回】	第2回 論文紹介および発表1 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。									
授業計画 【第3回】	第3回 論文紹介および発表2 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。									
授業計画 【第4回】	第4回 論文紹介および発表3 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。									
授業計画 【第5回】	第5回 論文紹介および発表4 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。									
授業計画 【第6回】	第6回 論文紹介および発表5 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。									
授業計画 【第7回】	第7回 論文紹介および発表6 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。									
授業計画 【第8回】	第8回 論文紹介および発表7 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。									
授業計画 【第9回】	第9回 論文紹介および発表8 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。									
授業計画 【第10回】	第10回 論文紹介および発表9 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。									
授業計画 【第11回】	第11回 論文紹介および発表10 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。									

授業計画 【第12回】	第12回 論文紹介および発表11 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。
授業計画 【第13回】	第13回 論文紹介および発表12 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。
授業計画 【第14回】	第14回 論文紹介および発表13 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。
授業計画 【第15回】	第15回 論文紹介および発表14 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。
授業の到達目標	国内外の果樹栽培に関する動向を理解するとともに、要点をまとめて発表できるようになることを目標とする。【専門分野のスキルの獲得】 【汎用的技能の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外の学修 【予習】	次回の論文を読み、知識を深めておくこと（約1時間）。
授業時間外の学修 【復習】	授業で読んだ論文に関する参考文献を調べ、より理解を深めること（約1時間）
課題に対する フィードバック	毎回、発表についての指導を行う。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1) 受講態度-50点 2) 発表内容-50点
テキスト	特になし（毎回資料を配布する）
参考書	特になし
備考	